



病理組織検査ってどんな検査？

福岡市食肉衛生検査所では、安全な食肉を流通させるために様々な専門的検査を行っています。今回は、その中の病理組織検査について紹介します。

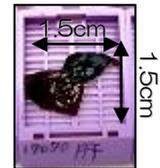
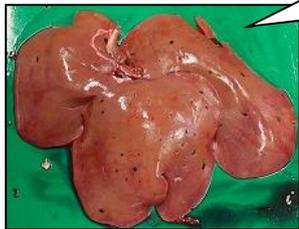


病理組織検査とは、採取された臓器などの「組織」を対象に、顕微鏡を用いて細胞の様子まで詳しく調べる検査法のことです。いくつかの段階を経て病理組織標本を作製し、病気を検査、診断します。では、標本の作製から診断に至るまでの流れを見ていきましょう。

検査の流れ

1. 採材・切り出し

皮膚や臓器にたくさんの黒い模様を確認。これは一体なんの病気だろう？



約 1.5cm 四方に切り出す

病気が疑われる臓器、リンパ節などの組織を採取し、観察しやすい大きさに切り出します。

2. 固定・包埋



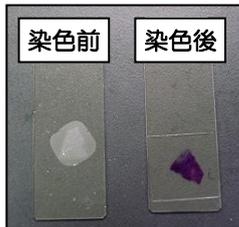
組織をホルマリンに漬け込み（固定）、パラフィンというロウの一種に埋め込みます（包埋）。

3. 薄切



パラフィンで固められた組織をマイクロームという装置を用いて 1mm の 1000 分の 1 の厚さに薄切りし、ガラス板に張り付けます。

4. 染色



貼り付けた組織は無色なので、観察しやすいように様々な染色液を用いて染色します。

5. 鏡検



診断名

悪性黒色腫

皮膚の“がん”の一種。メラニンという黒い色素を作る細胞が腫瘍化し、全身に転移したもの。

顕微鏡を用いて細胞の様子を観察した後、最終的な診断を行います。

このように、病理組織検査では臓器などの組織中で何が起きているかを細胞レベルの視点で観察することができ、白血病や腫瘍の診断などに役立っています。